

## コンマス論 宮嶋みぎわ

2001 年執筆

2006 年前書きを追加

2018 年さらに前書きを追加

2018 年末バージョンを制作。大幅に修正しました。

※著作権は宮嶋みぎわに帰属します。ガンガン引用していただいて OK なので、その折は宮嶋みぎわのコンマス論から引用したことだけ、書いてね。

### 2018 年末前書き 1

2018 年夏、とある学生ビッグバンドのリーダーさんからメールが届きました。「みぎわさんが以前サイトに載せていらっしゃったコンマス論を読みたいのですが…」懐かしい！確かにそれ、書いた、書いた。でももう 10 年くらい前のことで、なくなっちゃったぞ？困った！！…と思ったら、なんと知人の SK さんがインターネット上で探して、見つけ出してくださいました。

この「コンマス論」という読み物は 2001 年 5 月、私が 26 歳の時に書いたらしいです。正直、いつ書いたか、いつまで WEB に載せていたか、全くもう覚えていないのですが、書いた当時は勉強になると大変話題になって嬉しかったものです。

それを知っていて読みたいとおっしゃる現役学生さんが 2018 年になってもまだいらっしやるとは！17 年経ってるのに！汗

感謝と同時に、約 20 年経っても、パンマス向けのお役立ち書籍などが一切出版されていないのだな！という事実には驚愕します。

少しでも皆様のお役に立てればと願い、改めて改訂版を制作しました。皆様のバンドが良い音楽を奏で、バンドメンバーもリーダーも幸せになり、演奏を聴いたたくさんの方と音を通じてつながっていけるよう、心より願います。

2006 年ごろ書いた当時のまえがき（一部修正済み）

みなさんこんにちは。

この読み物は、「ビッグバンドの仕切り」に悩んだ上

相談に来てくださる方があまりにも多く

ちょっとでも役に立てば・・・

と、2001 年ごろ書いた文章がベースになっています。

（私は 1999 年から自分のビッグバンドで活動していました。）

バンド開始当初は私も

ビッグバンドで音楽を作り上げていく作業が難しすぎて

毎日悩み・苦しみ・先が見えず

困惑する日々でしたが

メンバーと一緒に頑張り続けるうち

3 年目くらいで自分なりの方法がつかめました。

5 年以上過ぎた今でも（2006 年現在のことを言っています）

時折迷うことがある私ですが、私なりの方法をここでお見せします。

孤独感を感じがちなリーダー業の皆さんの励みになればなあ

と思っています。

## 目次

### 1：合奏準備・ミギーの心得 p.4

合奏（全体練習）には事前の準備が不可欠。周到であれば成功率も高まります。

ここでは私が合奏に向けてどんな準備をしているかを紹介します。

事前にやっておくべき準備のチェックリストのように使えます。

### 2：合奏論（合奏とは何をする場所なのかについて、エッセイ） p.14

こちらは合奏について思うことを書いたエッセイ。

当時、学生バンドのコンサートマスターに「バンドがまとまらない」と相談され

とてもメールではお返事には書き切れず、WEBにまとめあげたものがコレ。

何年もたった今でも「役に立ちました」「なるほど！」など

嬉しい感想をいただくコンテンツです。

## 合奏準備・ミギーの心得

「時間の無駄」が多い合奏は  
避けなければいけません。

貴重な練習時間を1分でも無駄にするなんて、勿体無い！  
その上無駄が増えた分だけ、皆があなたを尊敬しなくなっていくます。

みんなの大事な時間を預かるリーダーとして  
敬意を持って無駄を減らすこと。

そのためには事前準備をどれだけしておくかが、鍵になります。

A：事前準備は2段階に分かれます

ステップ1-五つの必需品を用意、カバンに入れる

ステップ2-戦略を立てる

ステップ1 5つの必需品はこちら

- 1：録音&再生ができる機械（録音できる容量があることを確認）
- 2：やる曲のスコア
- 3：ノート1冊
- 4：ペン。太いのと細いの2本がベスト。
- 5：やる曲のデモ音源（を再生できる状態にしておく）

1：録再用機器と空きメディアとマイク

「みぎわ方」では、合奏中の録音が必須。  
録音～再生用機器はなるべく音質の良いものを選びましょう。

ここでケチって歪んだ音質でしか録音/再生ができない状態になってしまうと音質が悪いことによってチェックできない箇所が増え結果的に非効率/非経済的な合奏になります。

\*録音した内容をコンマスが持ち帰り  
合奏以外の時に（時間を気にせず集中できる時に）  
スコアと照らし合わせながら落ち着いてチェックしましょう。

うまく行っているバンドでは  
コンマスだけでなく、各セクションのリーダーやメンバーも  
録音を聴いて次回の練習で取り上げるべき箇所を選択するための  
戦略づくりに時間を割いています。

録音を自分で聴いて自分で考えられる人の数が多いバンドほど  
上達のスピードが早いです。

## 2：やる曲のスコア

よく譜面を見ないで合奏を進める人がいますが、  
私にはそんなのアンビリーバブルです。

練習時、要注意箇所を見逃さずにさらうためにも、  
自分が言った事・みんなの演奏状態などを記録する為にも、  
スコアは絶対に必要。  
絶対に、です。

スコアが無ければ、各パートのリード譜を用意しましょう。  
リードがフィーチャーなどで「リード」役をしていない場合は  
実際にリードの役割を果たしている人の譜面を使います。

要するに大事なものは

それぞれのセクションがどこで何をしているのかを  
アレンジャー並みに把握する必要があるということです。

### 3：ノート1冊

何かとメモるために、1冊用意しておくべし。

何でもカンデモここにメモっておくようにすると

あれ、これ、メモったつもりなんだけど

どこに書いたっけ？

ということがなくなります。

合奏中は思ったよりも忙しくなるものでメモる場所を決めておかないと

まあ確実にそのメモを紛失します笑。

紛失しないために、素敵なノートを一冊選んで、それを使い続けるのが良いですよ！

### 4：ペン。太いのと細いの2本がベスト。

太いのは、譜面に印をつけるために使う。

なるべく目立つように、でも音符の上書きちゃって音符が見えぬ！なんてことが  
無いように、気をつけましょう。

私は日本からわざわざ買ってきた太字で書ける赤鉛筆を使っています。

細いのは、もっと詳細なメモ書きをするために使う。

なんてことないコツなんですけど、2本でかき分けるのって大事なんです。

### 5：やる曲のデモ音源

合奏中、デモ演奏（いわゆる「モノホン」ですね）を流して皆で聴くことが  
最も効果的な場合があるので

いつでも再生できるように常に用意しておきましょう。

必要だと思う箇所があれば、頭出しをしておいたり

何分何秒からその箇所が来るのかメモっておきましょう。

\*たとえば同じ曲を長期間やりこんでいる場合など  
細部に神経質になりすぎて  
音楽として最も大切な部分に思いが至らなくなるコトがあります。

木を見て森を見ず状態ですね。

「そもそもどんな音楽性の曲であったか」  
「どんどころがワクワクする曲なのか」など

あらためて全員で音源を聞きなおして意見交換してみると  
全員の方向性が揃いやすいのです。

演奏技術も音楽性も両方そろった演奏を創りあげるキッカケづくりとして  
試してみてください。

ステップ2-戦略を立てる  
必需品をカバンに入れたら、次は落ち着いて座って、戦略を立てましょう。  
3を除けば慣れれば30分くらいで出来ます。  
最初は2時間くらいかかると思うので時間に余裕を持って挑みましょう。

3は今回扱う楽曲の長さによって変わります。  
だいたい曲の長さの2-3倍の時間を想定しておきましょう。

戦略を立てるためにやること五つ

- 1：欠席者・遅刻者・早退者を確認
- 2：大まかに、やる曲・やる順番を決める！
- 3：まずそうな箇所をピックアップ。スコアに印と葉を付けておく
- 4：合奏時間に基づいた現実的な合奏進行時間割を考える

## 5：配る譜面に「欠譜」や「印刷ミス」がないか確認

### 1：欠席者・遅刻者・早退者を確認

時間を上手く使って、有益な練習をするためには、  
欠席者・遅刻者・早退者を把握しておく事が重要。

例えば、SAX セクションに欠席が多い日に、SAX メインの曲やっても意味ないでしょ？

「何時から何時まで、誰が揃っているのか」は、こまめに把握して  
その状況にピッタリ合わせた練習メニューにしよう。

※遅刻早退欠席のお知らせをギリギリまでしてこないメンバーが居る場合、その人を首にするか、バンドにおいておくか、を本気で考えましょう。「楽器から音が出る」人が良いメンバーとは限りません。“今は音が出づらいいけれども真剣に練習する気があってリーダーに協力的“という人のほうが長期的に見て必要なメンバーです。これと同じことをたくさん  
の名物経営者が経営学の本で言っています。リーダー業に本気で興味のある方は、是非積極的に経営学や集団マネジメントのビジネス書もお読みになってください。

### 2：やる曲とやる順番を決める！（大まかな想定）

次のコンサート等で演奏予定の曲名を全部書きだし

それをじーっと眺めます。

じっと眺めていると、どの曲がまずい状態なのかを思い出し始めます。

思い出し始めたら、曲名の横に

どこに手をつけなきゃいけないかを、書き出していきます。

例えば



- ・ サックスソリが難しすぎてまだ良く歌えていない
  - ・ ブラストリズム隊の噛合いが悪い
- などなど。

手を付けないとまずい箇所を書き出したら  
あらためてそれら全部をじーっと眺めます。

そうすることで、どの曲がもっとも仕上がりから遠く  
課題が多いかが見えてくるので  
ここではじめて大体おおまかに  
優先順位とやる順番を思い描いてみましょう。

優先順位が高いからといって  
先に練習すればいいとは限らない！というのがポイントです。

例えば曲 A を先にやることで曲 B にもその練習方法が応用できるとか...  
よく考えると賢いやり方があるものです。

思い出してください。  
私達は一秒たりとも合奏時間を無駄にできない  
厳しい立場に置かれたリーダーです。

こころにはゆったりと余裕を持って  
でも賢く考えましょう。

欠席・遅刻・早退者のことも頭におくことで  
今回合奏でやる曲と、やる順番の計画はよりシャープになります。

3：まずそんな箇所をピックアップ。スコアに印を付けておく。

これは非常に重要なステップで  
時間がない場合はここだけでもやりましょう。

まずは前回練習の録音を取り出し  
筆記用具を手に、スコアを見ながら聞いていきます。

録音を再生したら  
ひたすらスコアに印を付けて行きます！

- ・練習しなきゃいけない箇所
- ・ちょっとでも疑問を感じた箇所（なんだかハモってないなあ、、、とか）
- ・これはメンバーに伝えなきゃ！と思った箇所（ココにはアクセントを付けて！とか）

など、思いついた場所はすべて！です。

この作業を、「前回練習でやった曲全曲分」行くと、  
非常に大変ですが  
他のどんな方法よりも有意義です。  
練習でやった内容を、漏れなく・間違いなく、次の練習に活かせます。

おすすめのやり方は

- ・最初はとにかく聞きながら全部メモを取る。
- ・次にメモった場所の中で特に大事な箇所には付箋を貼って、ぱっとめくれるようにしておくことです。

私はNYでのリハーサルでも毎回これをやっており  
それいいね！と他の作曲家が真似し始めたほどなので、おすすめですよ。

<新曲がある時>

バンドとしての初練習 or 新曲を初めてやる時は  
プロが演奏しているデモテープを聴きながら、同じ作業を行いましょ。う。  
この場合、「何処らへんでウチのメンバーはつまづくだろうか」という

想像力が、求められます。

社会人バンドの場合

これら全部をコンマス一人がやると  
掛かる負担が大きすぎて続かなくなることが多いです。

その場合1曲ずつバンド内に「リーダー」を作り  
その方にやってもらうという方法もおすすめです。  
社長から部長や課長に仕事を託すようなイメージです。

繰り返しますが

1人のリーダーが偉そうに何でも仕切っているバンドはうまくいきません。  
全員が自ら率先して録音を聴いて次のための準備をしたり  
このような作業を率先して手伝うようになると  
バンドはうまく回り始めます。

リーダー側も決して「これを渡したら自分の思うようにやれなくなる」  
などと馬鹿な考えで作業を抱え込まないこと。  
一人でしか動けない人はいつか挫折します。  
良いチームを作れる人だけが真の勝者になります。

4：現実的な合奏進行の時間割を考え、書き留めておく。

上の1と2をやり終えると、  
「ははーん、次の練習では大体コレくらいの時間がかかりそうだな」  
というのが、見えてくるので、  
それを用意したお気に入りノートにメモってみましょう。

この時忘れずに必ずやるべきことは  
実際何分くらいかかりそうか、分数（予想所要時間）を書き出すことです。

これが分かると

「現実的に合奏時間内にやり終わられる時間割」  
を組み立てることができます。

非現実的な時間割を組んで

結局全部やれないという…これは最もよく起こる問題です。

がんばってチャレンジして

時間割を組む天才になってください。

これが苦手な場合はバンド内に上手な人を見つけて委託しましょう。

一人の人に仕事が偏らないようにすることが大事なので

その人一人に丸投げしすぎないように注意を払いながら委託してくださいね。

5：配る譜面に「欠譜」や「印刷ミス」がないか確認

準備も最終段階になりました。

配る譜面を確認します。

「欠譜」や「印刷ミス」がないか確認してください。

頑張って出席したメンバーをがっかりさせることだけは、

あってはならないのです。

欠譜があったら演奏できませんから。

(私はちなみに、なんどもこれをやってしまいました。メンバーをがっかりさせ、とても反省し、それを踏まえて申し上げます。)

※欠譜＝譜面が全パート分揃っておらず、抜け落ちているパートがある状態

※ 大事なコラム ※

コンマスの頭の中で、曲のイメージは固まっていけない

おまけコンテンツです。

準備を始める前の大前提として大事なことがあります。

それは

コンマスの頭の中で、曲のイメージが固まっていること。

言い換えれば

- ・ 曲の中に出てくる 1 音 1 音・ 1 フレーズ 1 フレーズを
- ・ どのように演奏するのか、についての
- ・ 具体的な案

が頭にクリアにある、ということです。

これが、コンマスの頭の中で出来あがっていないと、

練習の度に、言うことが違う（＝前言ったのとは違う演奏方法を要求する）

なんてことになったりしてしまいます。

「プロの演奏を真似る」という手法で、曲を完成しようとしているなら、

真似したい演奏を何回も聴きこみ、スコアに要点をメモして、

演奏のシミズミまで、把握しておきましょう。

真似すべき演奏例が無い場合には、

自分の頭の中で「理想の演奏例」を細かく組み立てておく必要があります。

やろうとしても直ぐに出来るようなことではないです。とっても難しいことですが、

何回もチャレンジして出来るようにしないと、コンマスとしては、半人前以下です。

私も出来るようになるべく努力中。みなさん、一緒に頑張りましょう！

## 合奏論

以下に書いた内容は、学生ビッグバンドの仕切りになやむ、とある後輩からメールをいただき、返信した内容です。一部の後輩向けに書いた内容ではありますが「誰でも読めるように、WEBにUPして！」との声をいただき、ここに開放します。(2018年加筆修正済み)

---

まず、伝えておきたいのが

### ■基本1■

3月から4月に新バンドメンバーが決まったばかりで、5月からスバラシイ演奏が出来るバンドなんてない、ということ。

→素晴らしいプレイヤーを集めたとしても、バンドとしてまとまりのあるサウンドにするためには

- ・メンバー全員がお互いの音を聴き合って
- ・互いに歩み寄って
- ・音や歌い方を合わせていくことが必要。

3月に結成して、5月までにそれが出来るバンドなんて、滅多に無いです。

でも、そのことに安心して努力をやめるようなバンドは、絶対伸びない。

→お互いの音や歌い方を合わせていく、という段階に到達するには、

それ以前の段階

～譜面どおりに吹けるようになる、とか、自分なりの歌い方を確立する、とか～を、経ないとはいけません。

それが出来てないくせに「まだ5月だから平気だもんね」って思っていると

いつもまでも、まとまりあるバンドサウンドに到達できません。

それから

## ■基本2■

フルバンの目的は、17人で全員で1つの音楽を作ること、だよ、ということ。

これで基本中の基本だから忘れてしまいがちなんだけど、基本だからこそ、忘れないで欲しい。

もっと噛み砕いて言うと、まず、

誰か一人でも「あ、まちがえちった！」ってなると

その段階で、音楽が崩壊する、ということ。

これを胸に刻み込んだ上で、自分に厳しく個人練して欲しいと思います。

みんなには、そのような厳しさが、足りない気がするなあ。

それから、

17人全員が、それぞれバラバラな方針で吹いてると、その目的は達成されないよね、ということ。

このことを分かって吹いていますか？

じゃあ、どうやって、方針を1つにするか。

それが問題です。

方針を1つにまとめ挙げる方法は、大きく2種類に分けられると思う。

方法1：強力なリーダーが方針を打ち出し、みんなはそれに従う。

特徴) リーダーが作曲やアレンジを担当していると、この方法になる

いい点) 方針が決まるのが早いので、仕上がるのも早い

懸念点) リーダーには、楽曲への深い理解と、それを確実にメンバーへ伝え得るだけの高いコミュニケーション能力が必要。

だから、ジュニコン（ジュニアバンドのコンサートマスター）とかがこの方法を取ろうとすると、苦戦する事が多い。かつ、もしメンバーの中に、リーダーの意見に反対する人がいると、この方法は成り立たなくなる

方法2：メンバー皆で意見を出し合い、納得行くまで練り上げる

特徴) 作曲・アレンジの担当者がバンド内にいないと、その曲に対する解釈が様々に分かれる為、この方法になることが多い。

いい点) メンバー皆が納得した方針になるので、バンド内がいい雰囲気になる

懸念点) ・方針が決まるのに時間がかかる為、仕上がりも遅くなる。

・合奏時間を使って方針の話し合いをしてしまうと、楽器を吹くのに使える時間がどんどん短くなってしまう。

自分のバンドに、どちらの方法が適しているか、

MIXさせるとすると、どのくらいの割合でMIXさせるといいのか、については常に考えつつ、臨機応変に変えていったらいいと思う。

大事ななのは、その時々や割合や、なぜそういう割合にしたのか、という理由をメンバー全員がちゃんと理解しておくこと。

何をする時でも

理解しながらやるのと、理解せずに流されながらやるのでは

生まれる結果に大きな違いが出るからね。

※ちなみに※

私のバンド miggy+では、方法1と方法2の割合が、7：3って感じ。(注；当時の社会人バンドとしての ミギーバンドのことを語っています。)

曲は私が書いているので、基本的方針等は全て私が決めるんだけど、管楽器の知識や、ドラム・ベースの専門的知識が私には無いので、その辺をメンバーの皆が智恵を出し合って補佐してくれている。

これって、オリジナル曲をやるバンドとしては、理想的な進め方だと思う。



(メンバーのみんな、いつもありがとう。)

では、

それらを踏まえた上で

いざ合奏に臨むにあたっての心構え、について、書いてみよう。

合奏をやる上での心構え

コンマスの心構え

・コンマスは、舵取り役だ！まずは、意志を持って方向性を決めよう！

メンバーに気を使うあまり、練習の進め方や、歌い方、仕上げ方、について、自分の考えや意志を持ってないコンマスって、意外に多い。(実は私もそうだった)

でも、舵取り役であるコンマスがまず方向性を決めないと、バンドは右へ行ったり左へ行ったり、よろよろウゴメクだけで、ちっとも前進しないのです。

まずは、自分の考えを信じて、方針を打ち出そう！

「うちのバンドは、基礎がなってないからレギュラーでも基礎練をやる！」

「この曲は繰り返し練習する必要があるから、毎回1度は通しをやる！」

「ここはスタッカートで吹いた方がカッコイイから、そうする！！」

などなどなど。

勿論浅はかな考えで、方向性を決めちゃダメだから、慎重さは必要だけど、いざとなったら、エイヤア！って英断して、方向性を決める勇気が、リーダーには必要なのだ。

・コンマスには、伝える技術（喋りの技術）が必要だ

コンマスは、超いっぱい喋らないといけない。

思ってる事、感じた事、考えた事、、それらをその場その場で、メンバーに

・正確に (違うニュアンスで伝わっちゃったら意味が無い)

・確実に (聴いてない人が居たら、バンド全体の演奏に支障がある)

・感じよく (幾ら仕切り役だからと言って、メンバーを傷つける権利はない)

伝える必要がある。

これには結構気を使うし、ストレスにもなるが、非常に大事な事なので、  
気をつけないといけない。

例えば自分がイライラしているからと言って、小声でボソボソ指示を出したり、感情のままに怒鳴っちゃって、何言ってるか分からなくなっちゃったりしたら  
「演奏上必要な情報をメンバーに伝える」という、コンマスの仕事を  
全くマツトウできてないことになっちゃう。

辛い事もあるけど、コンマスは常に、

「自分は、伝えるのが仕事なんだ」ってことを意識してないと、いかんのだ。

・何かを伝えたら、その場で吹いてもらって確認しよう

たとえば

「そこは、こういう風に歌ってくれ」という指示を、みんなに出した時。  
ちゃんと伝わったかどうか、不安になるのではないだろうか？

そういう、「言葉では伝えにくいことを伝えた時」は、

すぐその場で、

「じゃあ吹いてみて!」、と  
お願いしてみるといい。

そうすれば、きちんと伝わったかどうか確認してから次に進めるので  
効果的だし、気分もスッキリする

・コンマスには、準備と努力が必要だ

コンマスは、合奏中なかなか演奏できない（というか、曲が仕上がるまでは、演奏せずに、  
仕切り役に徹した方がいい）ので、影ながら人一倍個人練しておく必要がある。ひたすら、  
練習練習また練習・・・これは、コンマスを1度やれば、誰でも感じるアタリマエのことだ。

コンマスが演奏上みんなの足を引っ張る訳にはいかないし、常にみんなに尊敬される存在  
で居た方が、何かと発言に重みが出て”いい感じ”なので、出来れば、カリスマプレイヤー

一を目指して欲しいと思う。

で、準備、についてだが。

私は、コンマスは事前準備が重要だと思ってる(詳しくは[合奏準備・ミギーの心得](#)参照)。  
それがないと、合奏の時アタフタしてしまって、時間を喰われ、効率が悪くなり、それを見てメンバーがイライラし、イライラしてるのを見てコンマスもムカツク、みたいな悪循環になるので、気をつけよう

・録音とメモだけは、絶対やったほうがいい！

メンバーの演奏を聴いていると、たいてい

「あーこそも直したい、あそこも直したい、あーー、そう言ってる間に次の部分が始まっちゃった！！！！！！(パニック!)」

と、なる。

これは多分、どんなバンドでも同じなんだろうな。

だからこそ必要なのが、録音とメモ。

まず、演奏は全て録音しておいて、余裕があれば、合奏じゃない時間に、冷静になって聴き返して見るといい。合奏中には気付きもしなかったモノが、聴こえてくるはずだ。

そしてメモ。

演奏を聴くとき、漫然と聴くのではなく、気になった部分を、スコア(スコアが無ければ、リード譜)に印しながら、聴くのである。

そうすれば

「あーいっぱいありすぎて、何言おうとしたか忘れた！」ってのが、無くなるし、次の週もそのスコアを使って練習すれば、先週から進歩したかどうか、確認する事も出来る。

・セッション別練習にも、積極的に参加してしまえ！

私は、コンマスがセッション別の練習に出て仕切るのは非常に重要な事だと思っている。

特に、バンドの中で、とある1つのセクションだけが仕上がりが遅いような場合、コンマスがセクション練を仕切ることによって格段に仕上がりが早くなったりする。

この方法が効果的な理由は、以下のとおり。

仕切り役をコンマスがやってくれるので、セクションリーダーが存分に練習できる  
コンマスが不満に思った事を、直接その場で伝え、解決することが出来るので、効率がいい

これは、絶対効果的なので、是非試して欲しい。

だんだん書くのに疲れてきたぞ、、、  
でも、頑張ろう。。。。

続いて、メンバーの心構え

メンバーの心構え

・合奏は個人練の場ではない

合奏で個人練しちゃいけない理由は、以下のとおりだ

バランスチェックが出来ない → 合奏は全体的なバンドとしての「まとまり」や「バランス」を作り上げるための場、である。もし誰かが音符を間違えて吹いたりすると、バランスなんてチェックできない。コンマスはとっても困っちゃうのだ

重要なコトを聞き漏らす可能性がある → 個人練に夢中になると、コンマスの話が聴こえなくなるよね

うるさいし、雑然とする → コンマスが喋ってるのに楽器の音が出てると、凄くうるさいし、練習自体が雑然とした雰囲気になっちゃって、かなり良くない。

合奏で個人練するなんて、百害あって一利なし、だゾ。

・コンマスが言った事は一つ残らずメモる！これは必須！！

もしも「私は天才なので、全て暗記できる。だからメモはしない」という人がいるなら、それでいい。

要は、忘れちゃだめだ、と言いたいだけなのである。

1回言われた事を、1回で直せば、

仕上がりのスピードが極端に早くなる。  
逆に1回言われた事を忘れて何度も繰り返す人は、  
はっきり言って、バンドに迷惑である。

コンマスが言った事以外に、自分で気づいた事があれば  
それも、メモしておくべき。  
次の合奏までに、絶対忘れてしまうから。

いい意味で自分の記憶力を信用しない（＝記憶力の無さを冷静に受け止める）  
ことも、必要な事なのだ

・コンマスはメンバーの敵ではない。反抗するのは止めて、協力し合おう  
学バンでは良くある光景の1つに  
”コンマスが言った事にメンバーが反抗する”というのがある。

反抗したくなる気持ちは、よく分かるんだなあ。。  
自分だって一生懸命練習してるんだし、間違えたくて間違えたんじゃないし。。  
うちのコンマス、言い方がムカツクんだもん！ってことも  
たくさんあるだろう。

でもね、たいていのコンマスは、凄く孤独感を感じながら、  
いい音楽を作る為にはどうしたらいいだろう？！って  
試行錯誤しつつ歩んでいるのです。

で、超頑張って合奏の準備をして、超頑張って仕切っているのに  
みんながゼンゼン上達してくれないような時、  
疲れてムカツク言い方をしてしまうことも、あるわな、人間だから。

その辺のところを、是非、想像力をたくましくして考えてあげて  
理解してあげて、でもって  
皆で、コンマスと協力しあって、曲を仕上げたほうがいいです、絶対。

コンマスって大抵、バンドの中で音楽に理解の深い人になる訳だけど  
それでも大概は、  
知識に偏りがあったり、思うように指示できなくて悩んだりする訳で、  
そこらへんを察知して、  
いかにフォローしてあげられるか、というところに  
メンバーとしての醍醐味があるのだと、私は思う。

最後に、あとがきを一つ。

私が合奏についての考えをここまで深めたのは  
ごく最近のことです。  
それまでは、超どうしたらいいか分からなくて、悩んで眠れない日とかもあったのさ。

でも、試行錯誤しながら3年間コンマスをやっていくうちに  
自分と自分のバンドにあったやり方が、  
だんだん見えてきたのだ。

皆さんも、色々悩むと思うけど、がんばろう！

miggy 筆

2001年5月30日

### あとがき

私は今NYのアップパーウエストサイドという場所にある日当たりのよいアパートのデスク  
で、このあとがきを書いています。

コンマス論を書いた17年前は、私は東京でサラリーマンをしていました。まさか自分が  
将来プロになり、NYに住み、アメリカでアルバムをリリースする日が来るとは夢にも思  
いませんでした。2018年になって、最初の手直しはCDジャケットの入稿日でした\*（ジ  
ャケットの印刷データを印刷会社さんに渡す大事な日）。思いを込めてCDを世に送り出し  
つつ、このコンマス論も皆さんにお役に立つよう思いを込めて送り出しました。二度目の

加筆をしている今日は11月の末。CDが出て、オーストラリアや日本各地でツアーを終え、次のプロジェクトの打合せを前にリラックスした気持ちでこれを書いています。

再度申しあげますが、コンサートマスターを始めたころは苦しく大変なことばかりで、将来自分が Vanguard Jazz Orchestra と仕事をするのも、米国の有名レーベルから CD を出すことも全く予想なんて出来ませんでした。自信もなく、助けてもらってばかりの情けないリーダーでしたが、そのような日々があったからこそ、この文章が書けました。人生、何がどうあとで生きてくるか、分からないものです。

だから安心してください。がんばっていれば、道は開けます！

それではみなさん、幸せな人生を！Keep swinging!

2018年11月20日

宮嶋みぎわ